

年末年始の災害防止を徹底しよう!

年末年始は何かとあわただしく、生活のリズムも変わりやすい時期です。安全で健康に年末を締めくくり、新たな年をスタートできるよう安全衛生活動のポイントをいくつか紹介します。

非定常作業時の災害を防ぐ!

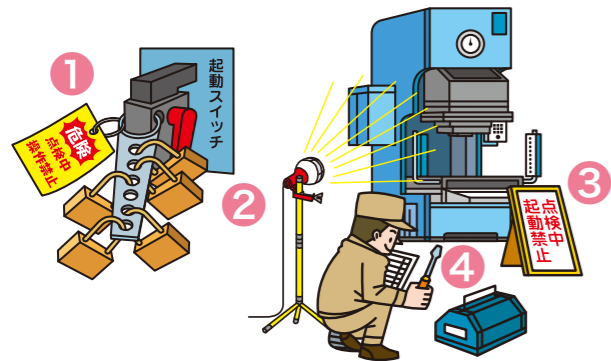
年末年始は、大掃除などで一斉に設備を停止した上で点検や修理を行うなど、通常とは違った非定常作業が多くなります。特に「はさまれ・巻き込まれ」などの災害を防止しましょう。

事前準備

作業計画書の作成、作業の手順・方法の決定、必要な資格の確認。これらを協力的会社や安全衛生担当部門など関係者が事前に行った上で、リスクアセスメントも実施して調整しましょう。

作業開始前ミーティング

作業の進め方、合図の方法、禁止事項などの確認。残留リスクや危険予知実施に基づくリスク情報の確認と共有。必要な保護具の着用・確認。



- 1 起動スイッチ等に施錠。複数人で作業する際は、複数の錠で施錠し、各作業者が自分のキーを持つ(ロックアウト)。
- 2 暗い場所は補助照明などで、適正な照度を保つ。
- 3 動力を遮断し(電源を切り)、機械設備を完全に停止させ、操作盤等の近くに「点検中のため起動厳禁」などの表示をする。
- 4 チェックリストなどを使って漏れなく点検。指差し呼称で手順や安全の状態などを確認。

作業中に不測の事態が生じたら、作業を中断し、作業指揮者に報告。

合図は大きな声でハッキリと決められた方法で。

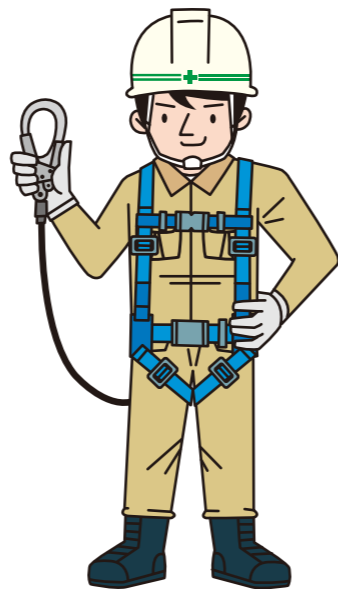
作業が終了したら…

- ・作業のため無効にした安全装置、取り外した安全カバーなどは元に戻す。
- ・作業場を整理・整備。
- ・ヒヤリ・ハット情報などがあれば、作業指揮者に報告。

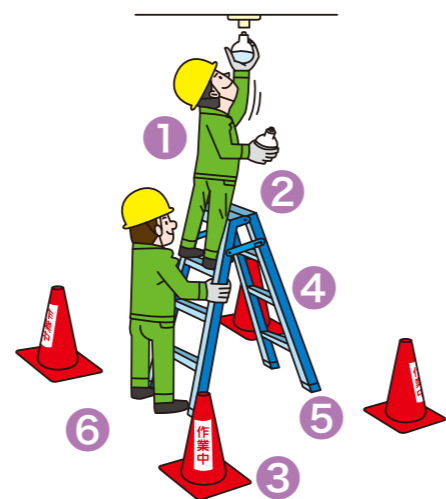
保護具の点検・整備の徹底

2019年2月1日から、高所作業における墜落制止用器具は「フルハーネス型」を使用することが原則となりました。

年末年始は、普段使用している器具や保護具等の点検をしっかりと行い、不具合がないかなどをチェックしましょう。



脚立作業のポイント



- 1 天板の上に乗らない。
脚立にまたがらない。
保護帽を着用する。
- 2 踏さん上で作業する際は、足を軽く開き、脚や膝を軽く天板に当てて、体勢の安定を図る。
- 3 周囲に「作業中」などの注意喚起の表示をする。
- 4 脚立は原則として、2m未満のものを使う。
- 5 脚部に滑り止めの付いている脚立を使用し、開き止め金具を確実にロックする。
- 6 水平で段差のない、安定した箇所に設置する。

転倒災害の防止のために

転倒は、労働災害(休業4日以上)の死傷災害全体の4分の1を占めています*。転倒災害を防ぐため、職場に危険な箇所がないか、通路の安全が確保されているか、チェックしましょう。



例えば…

- 道路や通路に雪や凍結した箇所がないか
- 床や通路の凸凹に補修または保護カバーをしているか
- 階段の滑り止めが外れていないか
- 通路や出入口、曲がり角、エレベーター前、階段などに物が置かれていないか
- 床のゴミ、油、水をすぐ拭き取るようにしているか
- 床をほうコード類にカバーが付いているか
- 安全な踏み台、はしご、脚立は整備されているか
- スイッチ、消火器、非常口の前に物が置かれていないか
- 物のはみ出しや頭上に障害物はないか

*平成30(2018)年の統計。厚生労働省「労働者死傷病報告」より

冬季の安全運転

交通事故の死者数、発生件数、負傷者数は年の後半に多くなる傾向にあり、いずれもピークは12月となっています。

冬季の運転のポイント 例えば…

■ 出発前の準備

- ・目的地方面の交通情報や降雪など気象情報を収集。
- ・タイヤの磨耗状態、燃料の補給、タイヤチェーンの使い方を事前に確認。冬用タイヤでも走行困難ことがあるため、タイヤチェーンは必ず携帯する。

■ 「急」のつく運転を避ける

- ・急ハンドル、急ブレーキ、急発進などは、スピンやスリップの原因となります。

■ 凍結しやすい場所に注意

- ・橋の上、日の当たらない道路、交差点やカーブの手前などは凍結しやすいので、あらかじめスピードを落として徐行運転をする。



「年末年始無災害運動」関連 中災防図書・用品



ご購入はこちら

<https://www.jisha.or.jp/order/index.php>
TEL 03-3452-6401 FAX 03-3452-2480